

あいさつ

小国町は、広大な町土に100余の集落が点在し、それぞれの地域特性を生かしながら、町全体の個性を織り上げてきました。そして、こうした土地に根ざした先人のたゆみない努力によって、独特の産業構造や人々の生活態様が形成されてまいりました。

小国町ではこれまで、山村振興あるいは過疎対策などの視点から、それぞれの段階に応じて、集落の再編やコミュニティの維持などについて、対策を講じてきたところであります。特に、昭和45年に実施した集落移転は、「集落再編の小国方式」として、高い評価をいただいところでありました。

また、現在は、町全体を「白い森」と名付け、豊かな自然と地域資源を評価、保全し、自然と人間の共存の在り方を体験的、保養的に学習できる多彩な空間づくりを行う「白い森構想」を樹立し、まちづくりを進めております。

しかし、止まることなく進んできたわが国の人口減少、少子高齢化という人口構造の変化は、本町をはじめとする農山村地域に様々な面で影響を及ぼしております。特に農業従事者の減少・高齢化、それに伴っての耕作放棄地や管理放棄林の拡大など、農村そのものの存続とともに、こうした農村を維持し、連帯意識を高め、相互扶助精神の下での生活をつくりあげてきた「ムラ機能」そのものが、衰退してしまう恐れが生じてまいりました。

住民生活の最も基礎となる集落を単位に、その機能の維持、保全に視点を置いて、新たな政策展開を図っていくことが、自立した町を築いていく上で、極めて重要なポイントであると考えております。

このため、その望ましい方向性を探っていくために、財団法人地方自治研究機構の多大なご理解を得て、「農山村地域におけるムラ機能の維持・保全に関する研究」として、共同で取り組むことができました。社会環境の変化に伴って対応が迫られている本町の課題に対して、惜しみなく支援してくださった同機構に深く敬意を表する次第であります。

研究委員会の委員をお願いいたしました先生方はじめ、財団法人地方自治研究機構の皆様方、さらに、基礎調査機関としてご協力をいただいた財団法人日本システム開発研究所の皆様方から、多様な情報とご指導をいただくとともに、わが国における農山村地域の重要性について、深く語り続けてくださり、私どもに大いなる刺激を与えてくださったことに厚くお礼を申し上げます。

本研究でとりまとめさせていただいた内容をもとに、ムラ機能の維持・保全に向けた新たな取り組みに挑戦しながら、奥深く味わい深い小国町を築いてまいりたいと存じます。

平成19年3月

山形県 小国町長 小野 精一